

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201819		
法人名	医療法人梶田医院		
事業所名	グループホームみのりの里コスモス		
所在地	長崎県佐世保市南風崎町119-4		
自己評価作成日	平成23年10月4日	評価結果市町村受理日	平成24年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成23年11月30日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人に合った個々の支援に取りくんでいる。
-----------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道沿いに面しており、法人医院に併設しており、川向かいには同法人グループホームや介護施設もあり協力体制が整う環境に位置している。法人全体が地域密着型ホームとして積極的に活動しており、ホームも利用者の作品を地域の文化祭に出品し、近所から日常的に声かけや訪問があるなど双方向の交流が行われている。職員は理念を基に利用者の「その人らしい支援」「笑顔」の支援を大きな柱として実践に繋げている。管理者は家族との信頼関係作りにも努め、支援の場に家族の協力を得やすい環境が作られており、利用者の安心に繋がっている。現場からの意見を発言しやすい環境ができていたため、職員は個別に利用者の楽しみとなる企画を提案し、笑顔に繋がる支援を行っている。家族、地域、事業所が互いの信頼関係の中で利用者が幸せな生活を送れるような環境を提供しているホームである。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に添って、地域の中で自分らしくいて貰える様な介護を心掛けている。	「実りたたる稲穂のようにいつまでも自分らしくあり続ける人生を送る」の理念のもと、4つの介護目標を掲げ、「自分らしく」を大切に個別ケアに努めている。月1回のミーティング時や新人には面接時に伝え、更に文書で渡すなど周知に努めており理念に沿った実践につながるよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店・農家・野菜屋さん・魚屋さん・飲食店など地域の方と日常的にお付き合いをしている。地区の清掃活動にも参加している。	地域の公民館活動に参加しており、作品作りや古新聞を頂きに公民館に出向いている。米を持って来て下さる地域の方がおられたり、配達に商店の方が来られ交流することが利用者の楽しみとなっている。他にも保育園やボランティアの慰問など日常的につきあいがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内勉強会に地区の方や利用者さんの御家族さんの参加があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し現状報告や意見交換を行なっている。民生委員さんや地区長さんより地域行事や地区の状況等の情報を頂き支援に繋げている。	2ヶ月に1度法人内のグループホームと合同で実施している。事業所の家族の参加はまだであり、全グループホームの報告を行っているため当該事業所の運営に活かす個別の内容はまだ出されていない。全体として包括支援センターから防災無線のアドバイスをもらっている。	運営推進会議は規程どおりに開催されているものの、法人内グループホームと合同であるため、当該事業所の運営の反映につながるものが少ない。家族の参加も含めて、工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の開催する指導研修に参加したり、手続き等時に情報交換を心掛けている。	行政主催の研修会は全て受講している。地域行事などについて地域の支所に尋ねたり、市担当課から訪問があるなど、日常的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム連絡協議会主催の勉強会や施設内勉強会にて理解を深めている。	外部研修や法人内での勉強会など身体拘束について学ぶ機会を設けている。これまでに身体拘束の事例があり、家族にリスクを説明し、連携を取りながら序々にはずしていった経験があるが、現在もベッド4点柵の利用者がいる。	職員からも4点柵が身体拘束ではないかとの声もあり、職員の介護経験、技術の高さをもとに柵をはずすための工夫、検討が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者会議やミーティング時注意を促し、施設内勉強会を行ない防止に努めている。		

グループホームみのりの里コスモス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については学習しているが活用までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面と口頭で説明し、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、職員や介護支援専門員が現状報告を行い、意見や要望をお聞きしている。ホーム入口には意見箱も設置している。	家族の訪問時には利用者の状況を細かく説明しており、その際に希望や意向を聞いている。毎週訪問される家族もあるが、状況によっては自宅を訪問し、話を聞くなど意向の把握に努めている。職員が聴取した場合は朝の申し送りやミーティング時に報告がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時や食事会時に設けている。	管理者は職員の意見を申し送りやミーティング時、時には個別に聞く機会を設けている。働きやすい職場を目指して勤務変更や希望休を取れるようにしており、理事長とは食事会の席などで直接話す機会がある。職員からの提案で調理器具を購入するなど反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間等、本人の希望にかなった勤務体制で働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、研修の報告をし希望や勤務調整を行い進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で東部ブロックの活動の中に「フリートークで学ぼう」計画があり職員が他施設の職員と交流し、向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意向・要望・心配事等をお尋ねし穏やかに生活して貰えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくりと話を聞く機会を設け安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関とも連携し、今必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常、食事や作業を一緒に行ない「共に」を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態変化や現状報告等、電話にて行い一緒に支援を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理髪店の利用・知人の面会時の対応・ドライブ・外出等で気配りしている。	家族の訪問以外に住んでいた近所の方や教会の神父が面会に来られている。家族と一緒に外出や外泊もある。ドライブでは住んでいた地域を廻ったり、馴染みの店に食事に行ったり、利用者が声を聞きたい人へ電話をかけるなど馴染みの関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体でのレクレーションや趣味を活かした小グループでの作業等お互いが協力出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も郵便物や問い合わせ等があれば電話連絡し相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話の中で意向の把握に努め、本人の希望を大事に考え支援している。	居室でマンツーマンでゆっくり話をしている。フロアでくつろいでいる時に尋ねると答えてもらえるなど職員間で情報を共有し、意向を把握している。意思疎通が困難な方には表情や雰囲気、家族からの情報を基に判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・関係機関からの情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング時に利用者さんの状態を話し合ったり、毎朝の申し送りや業務日誌で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者の意見を取り入れ介護計画を立てている。	短期3ヶ月、長期6ヶ月で計画を立てている。アセスメントを取り、本人や家族に希望を聞き計画案を作成し担当者会議で職員に図っている。その後本人や家族に同意を得て支援している。モニタリングには医師のアドバイスも反映している。ただし、次の計画作成に至る評価がなされていない。	支援についての日々の記録をもとに評価し、次の計画作成につながるよう検討、工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況をケース記録に記入、申し送りノートやケアメモにて共有しミーティングやモニタリング時に見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの日々の変化に合わせ、その都度支援内容を見直し対応している。		

グループホームみのりの里コスモス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会や公民館等にて地域資源の把握に努め地域のボランティアの方の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はすべて協力医療機関であり希望があれば協力医療機関との支援体制をとっている。主治医の週1回の往診も行なっている。	かかりつけ医の継続受診は家族の協力の下行われている。状況に応じ職員が行っている。受診内容は送迎時に職員へ報告があり、母体医院へも報告を行っており、医療機関同士の連携も取っている。協力医は週1度の往診があり適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現状を伝え相談・指示をうけ、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当医・担当看護師・御家族と密に連絡をとり早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に当事業所での見取りについてのアンケートや指針の説明等を行っている。	利用開始時に家族に向けて看取りについて事前アンケートを取っており、事業所での看取り支援について指針をもとに説明を行っている。状況に応じて医師、家族との話し合いの場を作り、最終的な意思確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し熟知している。救急救命の講習も職員全員受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員間での緊急連絡網での呼び出し訓練も行なっている。災害時の危険地帯の把握や避難場所の確認も行なっている。地域の方の協力もお願いしている。	自然災害時の法人連携体制や備蓄品は整っている。年3回避難訓練を法人施設全体で行っており、消防署の立会・指導も受け、誘導順番の確認や初期消火訓練を行っている。但し事業所単独での避難訓練は今年度は実施していない。	法人全体の応援体制を確認する訓練も必要であるが、初期避難訓練を当該事業所で実施することが必要と思われる。自主訓練など実施されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・排泄時は特に気配りをしている。	周囲の利用者に気づかれないような声かけを行い、自室トイレに誘導し必ず居室ドアを開けて支援を行っている。個人記録は事務所で管理しており、個人情報に関する同意書も作成され、職員への守秘義務も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や行動の中から思いや希望をくみ取ったり、選択肢を設けて決めることが出来る様に促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはほぼ決まっているが個々のペースで生活が出来るように柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室、理容室の予約や入浴時の顔そり・髭剃り等身だしなみやおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー書き・おしぼり巻き・お膳引き・お盆拭き・テーブル拭きなどその人に合ったできる事を手伝って頂き一緒に行なっている。	職員は嗜好調査結果やアレルギーに配慮しながら旬の食材を使った献立を作成している。外食に出かけたり、誕生会や季節行事の献立を採り入れ、食事を楽しむ支援を行っている。風習に合わせ赤飯を炊いて利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたメニューづくりや摂取量のチェックを行い、状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはその人のできる事を活かし、声掛け・見守り・介助とその日の個々の状態に合わせて対応している。		

グループホームみのりの里コスモス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大事にし、誘導を心掛けている。これまでの排泄動作を重視している。	排泄パターン表を作成し、時間や仕草など状況に応じて自室トイレ誘導を行っている。歩行不安定時のみポータブルトイレを利用しており、パッド使用の軽減や必ず便座に座ってからの排泄を促す支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の好みに応じ、手作りヨーグルト・牛乳・果物・野菜や運動・マッサージ等にて予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は週3回の入浴支援を行っている。入浴支援予定日は職員の人数を増やし希望に添えるよう努めている。	週3回の入浴日がある。拒否時は声かけ誘導し、ゆっくりと入浴を促している。入浴介助は2人体制で行い、車いす利用者も湯船につかれるように支援している。入浴剤やゆっくりとした会話など入浴でくつろげるような場面作りを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室とフロアー(ソファー)を利用してくつろがれている。空調管理や照明に気配りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルしている。薬局からの指導も受けることができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りでは成長の楽しみ・作品作りでは展示会での出品作品の見学を通して張り合いが出来、気分転換にも繋がっている様子である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や外泊は御家族の協力もある。ホームでは外食支援や花見・ドライブ等計画、実行している。精神状態や天気を見ながら近所の散歩も心掛けている。	日常的にホーム周辺の散歩や、屋上へ出かけての外気浴を行っている。今年度は、個人の希望に合わせた外食支援を企画し思い思いの場所へ出かけている。また全員での外出も企画し、花見や川棚まで遠出のドライブも行われ、戸外へ出る楽しみを支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は本人や御家族の意向で対応している。おこずかいを持ち買い物されてる方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとの訴え時は対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、イベントの飾り等で季節を感じて貰っている。	リビングは利用者の作品や写真、季節を感じる飾り付けなどがあり、全体的に明るく、穏やかな空間となっている。広いリビングにはソファが随所に置いてあり、利用者は好みの場所でくつろいでいる。毎朝モップがけの掃除、換気が行われ清潔な空間となるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は畳の間やテーブル・ソファがあり好きな場所でお過ごしである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用のタンスや仏壇・写真など持ち込まれている。本人の作品も飾られている。	個々の使い慣れたものを持ち込むことは自由で、タンスやテーブル、写真や飾り物などがある。ベッドの配置なども利用者が落ち着く位置を検討し実施しており、職員が居室及びトイレ掃除を行っている。又、加湿器を設置し健康面にも配慮するなど居心地のいい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた安全対策と解りやすい目印等に心掛けている。杖使用されている方には椅子に杖立ても作っている。		